

情勢報告

農業基礎研修講座が始まる



熱心に聞き入る受講者

7 月 24 日、振興センターで、新規就農者（5 年目まで）への基礎的な技術習得を目的とした「農業基礎研修講座」を昨年に引き続き開催し、14 名の参加を得た。振興センターの普及指導員が講師で、25 年 2 月まで毎月、計 8 回開催する予定であり、第 1 回目は、農薬の使用、管理についての講義を実施した。参加者からは「知っているつもりだったが、知らなかった内容も多くあり、それらを確認できてよかった」といった感想が聞かれた。

振興センターでは、今後も栽培管理などの講習を通じて新規就農者への基礎的技術の向上を支援する。

安芸駅ちばさん市場出品者、農薬適正使用について学ぶ



講習会の様子

7 月 24 日、安芸駅ちばさん市場出品者を対象とした農薬適正使用講習会が開催され、約 60 名の生産者が参加した。近年、農薬の河川流出事故が発生したことや食の安全安心へ消費者の関心が高まっていることから農薬の適正な使用方法の徹底が重要となっており、振興センターは農薬に関する法律や散布時の注意点などについて講習を行った。参加者は熱心に講習を受けていた。

振興センターは、これからも JA 集出荷場、個人市場出荷者だけでなく直販向け生産者についても農薬の使用方法的指導を行う。

ナス「土佐鷹」普及推進協議会総会で推進体制及び、販売戦略を協議！



総会の様子

8 月 6 日、生産者代表、関係機関等 42 名の参加を得て、土佐鷹普及推進協議会総会を開催した。普及 7 年目で、初めて作付面積の減少が確実（29.2→26.8ha）となり、改めて推進体制や販売戦略の強化について協議した。

環境農業推進課から、日本一の座が危うい本県ナスの現状や消費者離れを踏まえた産地への貴重な提案があった。また、園芸連からは、予約取引の充実など新たな販売戦略が提案された。更に、9 月には土佐鷹生産者大会を開催するなどの活動方針を決定した。

振興センターは、この総会開催までの協議内容の調整を行うなどコーディネート役として活動した。これからもより品質の良い「土佐鷹」生産の推進を図っていく。

J A土佐あき東洋支所柑橘部総会開催～24年度の活動方針が決まる～



総会風景

8月7日、生産者11名でJA土佐あき東洋支所柑橘部通常総会が開催され、H24年度の活動方針が決定、部会活動回数を増やした計画案も了承された。

振興センターは、ポンカンの生育状況、生見パイロット園地の栽培状況マップ作成について説明した。

生産者からは部会の現状(低参加率、役員のなり手がいないなど)について意見が出され、今後役員会で検討していくこととなった。

振興センターでは、篤農家技術の普及など、より魅力的な現地検討会や耕作放棄地問題を考える会などを行い、部会の活性化を支援する。